

日誌 17

この令和7年8月で、私も開業して10年になります。仕事量の増加に加え、年齢の影響もあり、一人税理士としての業務がだんだんとしんどくなってきました。

とはいえ、従業員を雇うほどの業務量があるわけではないため、記帳代行も引き続き一人で行っています。

定年後に開業した高齢の税理士ということもあり、長時間の入力作業には根気が続かず、また腰痛の原因にもなるため、何か良い方法はないかと考えていました。

そんな折、現在使用している税務会計ソフトの会社である JDL が、AI-OCR 方式による記帳入力を提供し始めたとのことで、展示会に足を運び、営業担当者の話を聞いてみました。また、ちょうど機器の更新時期でもあったため、価格は高額でしたが、思い切って導入を決断しました。



まだ使い始めて1週間も経っていないため、評価については半年後に改めて記したいと思います。

ところで、「AIが税理士の仕事を奪う」といった話も耳にしますが、AI機器は高額であるうえ、各顧問先の状況に応じたカスタマイズが必要なため、中小零細企業では、しばらくの間は税理士の関与が必要だろうと考えています。

税理士がAI機器を導入し、複数の顧問先に対応できるよう仕様を整えて記帳代行を行うことが、結果的に一人税理士事務所と中小零細企業の双方にとって良い結果をもたらす関係になるのではないかと思います。(ただし、これもあく

まで「しばらくの間」の話だとは思いますが)

下記の写真は、パソコンとテレビを接続して資料を確認しながら入力作業を行っている様子です。

機器を活用し（顧問先作成のデータのインポートなどを行いながら）、もうしばらくは頑張っていきたいと考えています。10年目の現状報告でした。

